

瓦落とし競技 放水の腕競う

相知消防団

唐津市
相知

大正時代か
ら相知消防団
に伝承される

「瓦落とし」競技が9日、唐津市相知町の相知中グラウンドで行われ、火消し男たちが寒風の下、放水で見事に瓦を落とした。＝写真

競技会には、同消防団（江口邦昭団長、団員391人）に所属する20分団が出場。7組に分かれ、80歳を全力疾走し、ポンプからホース6本を伸ばして7メートルの高さにつるされた「瓦」の的をめがけて放水した。審査は、瓦を落とした

タイムと操作手順などが対象。各チームとも11人で編成された団員たちがぎびぎびとした連携で臨んだが、数秒で落とすチームもあれば、手こずるチームもあった。

江口団長は「消防団も合併話があるが、伝統ある瓦落としは続けたい」と話していた。瓦落としは火消し男の心意気を示す「ちようちん落とし」が始まりで、その後「瓦落とし」として引き継がれている。

